

① 単為生殖

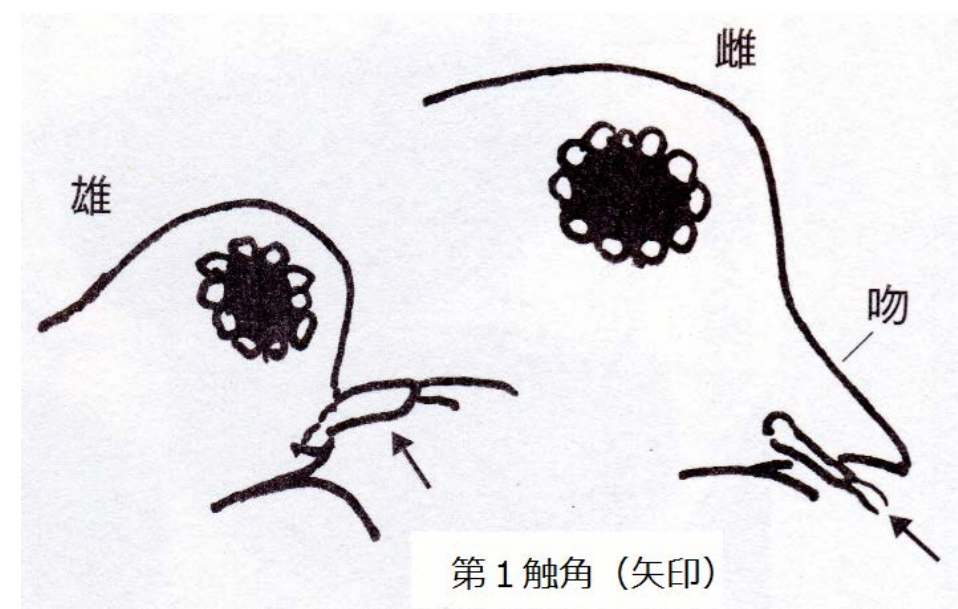
池や湖で泳いでいるミジンコは、ほとんどが雌です。ミジンコの繁殖に雄は必要ありません。雌が交尾をすることなく子供を産むことを単為生殖と言います。



卵は母親の育房のなかに産み落とされ、胚の発生が始まります。しばらくすると眼ができます。さらに尻尾のような殻刺が作られ、もぞもぞと動き様になります。条件が良ければ、約2日で母親から生まれ、泳ぎ始めます。

② 雄の出現

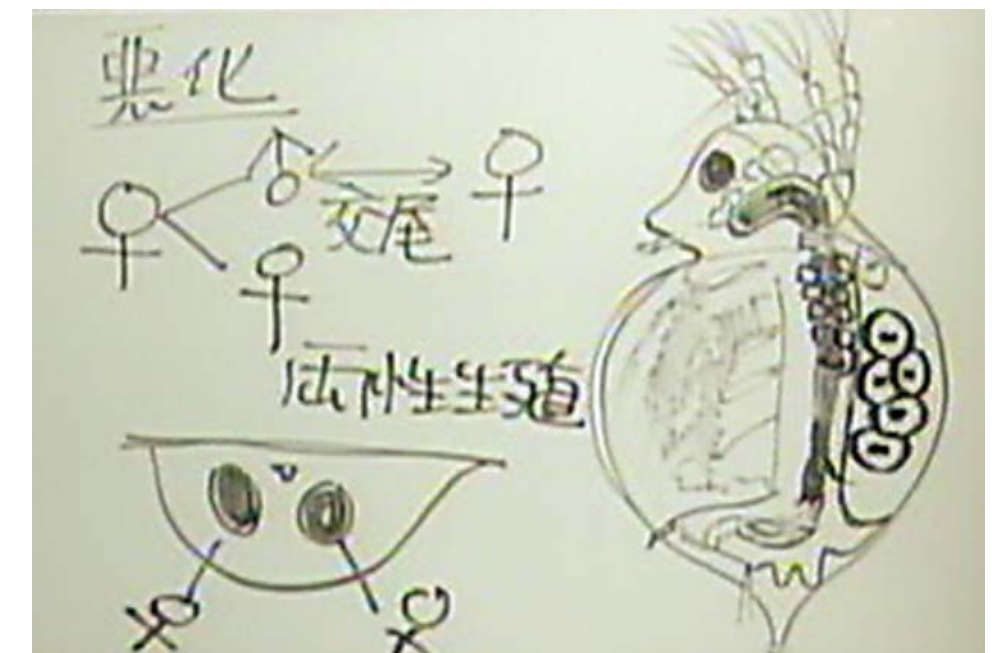
晩秋になる池や湖で雄が見られるようになります。雄の特徴は頭部に吻を持たない、雌では目立たない第1触角がはっきりと観察できます。



冬が近づいて環境が悪化してくると育房中の卵から雄が現れてきます。これは、母親が環境の変化を知って雄の子供に発育する卵を産んだのです。水中に雄が増え始めると、雌は黒い鞘に包まれた黒い卵を作ります。

③ 眠り続ける耐久卵

鞘の中の卵の数は種によって決まっています。ダフニアの仲間は二つの卵を作ります。この卵は、冬のあいだ発生を止めて環境の好転を待つので「休眠卵」または「耐久卵」と呼ばれます。



耐久卵は乾燥にも耐えます。降雨や雪解けで水がたまると、ふたたびミジンコが現れます。湖の堆積物に30年以上も埋もれた耐久卵から子供が生まれた報告もあります。